

教育行政

本村における教育行政のあゆみ

明治十二年(西暦一九一七年)頃の学校教育は上族の男子と開切の吏員養成のためしか行なわれていたが、戦後により四民平等の義務教育制度が布かれ平等に教育を受けられるようになったが、当時学校は首里、島尻、伊江島等にあつたためやはり田舎の者はこの恩恵によくすることがなかつたので各開切(村)では子弟教育を行ふべく教育所を設けたが住民はこれに関心を示さずこれが普及を計るに相当の年月の至難が伴つた。そこで北谷村に学校らしい学校が出来たのは明治十九年に北谷尋常小学校明治二十五年には野国に野国尋常小学校が設立されそして明治三十四年には野国尋常小学校が北谷尋常小学校に統合され明治四〇年には屋良尋常小学校が設立大正三年には北谷小学校

△一九四八年十二月四日北谷村より分村
 △一九四八年十二月十九日村長並に議会議員選挙村長奥間敏雄、議員喜世川可勢外八名
 △一九四九年四月一日役所を嘉手納村字屋良五〇番地に移転
 △一九四九年六月三十日嘉手納中学校設置
 「註」一九四七年二月十五日民政府布令第十五号で嘉手納小学校設置
 △一九四八年四月、六、三三制に教育制度が変り中学校が小学校に併置された
 △一九五〇年十一月群島議會議員選挙(稲嶺盛昌氏当選)
 △一九五〇年十二月琉球列島米軍政府が廃止され琉球列島米国民政府が設立、民政長官にマツカサキ元師が就任
 △一九五一年四月一日土地所有権証明が交付され土地所有権が確定する
 △一九五二年三月綜合グラウンド建設始まる
 △一九五二年四月一日琉球政府創立(臨時中央政府を廃止)
 △一九五二年四月二八日講和条約が発行し同三条によつて沖縄は米国の統治に入る
 △一九五二年五月四日嘉手納区教育委員及び会計係の選挙施行
 △一九五三年一月四日二代目村長選挙施行(高友名朝順氏当選)
 △一九五三年一月十一日村議會議員選挙(儀保浜太郎氏外七名当選)
 △一九五三年三月二九日市町村自治法の一部改正に

地区教育委員会が設けられ地区に教育行政の一部が移管された
 △一九五〇年五月二二日琉球大学が設立する(生徒五六二名職員四四名)
 △一九五二年二月二八日布令六六号をもつて琉球教育法が公布され各市町村に区教育委員会が設置され教育行政の一部が市町村に移管された
 「註」区教育委員会は市町村住民により直接選挙され五人の委員をもつて構成し市町村の總ての教育行政事務を司り教育行政の民主化、教育行政の地方分権、教育行政の自主性の確立という目的のものにつくられている合議体の機関である
 △一九五七年三月二日布令一六五号をもつて教員の集会の制約その他契約制等が実施され教員並に各民主団体の憤激をうけたのを廃止せざるを得なくなつた
 △一九五八年四月一日布令一六五号を廃止し民法(教育四立法)を制定し以上のように戦後のより村議會議員補充選挙施行(比嘉憲義氏外七名当選)
 △一九五三年十二月四日分村五周年祝賀式挙行
 △一九五三年十二月二五日奄美大島群島日本に復帰する
 △一九五四年十一月三日特別議會議員選挙(德里政助氏外三名当選)
 △一九五四年十二月五日全琉一般対高地上競技大会
 △一九五五年三月三十日野国總本殿並に第一鳥居完成なる
 △一九五五年十一月二五日甘藷伝来三五〇周年記念式典
 △一九五六年十二月村民会館建築はじまる
 △一九五七年一月三日村長選挙施行(高友名朝順氏当選)
 △一九五七年十月十日村議會議員選挙(屋我平順氏

教育行政はいくたの至難を得てやや安定してき
 (一) 嘉手納小学校の沿革
 △一九四七年二月十五日民政府布令第十五号をもつて嘉手納初等学校認可され
 △一九四七年七月字屋良(現敷地) 移転職員十三人生徒数三五七人
 △一九四八年四月一日学制改革(六・三・三制)により中学校(屋良中学校)を併置する生徒一八〇人職員四人
 (二) 嘉手納中学校の沿革
 △一九四八年四月一日屋良中学校として嘉手納小学校と併置する
 △一九四八年十二月校名を嘉手納中学校に改称する
 △一九四九年六月三〇日独立認可可
 △一九五三年十二月十八日

現敷地に移転
 (三) 富前小学校
 △一九五四年五月二二日嘉手納小学校の分校として設置(在籍四〇二人職員七人学級七)
 △一九五六年四月一日嘉手納村中校へ併置
 △一九五九年四月一日独立(在籍一、一〇五人職員二五人)
 (四) 嘉手納村育英会
 創立、一九五七年七月十日
 二日(一九五六年度は議会の貸費選考委員会にて運営する)
 (一) 目的、優秀なる学生生徒にして経済的な理由により修学困難なる者に対して学費を貸与しその他育英上必要な業務を行なつて有要な人材を養成することとを目的とする
 (二) 貸与資格
 1 本村に住居登録を有し引き続き二ヶ年以上居住するもの
 2 身体健全。且つ志操堅固なる者
 3 他より育英資金の貸与を受けてない者
 4 私費大学生及び高校生(短期大学生及び定時高校生を除く)
 (三) 基金総額一萬ドル(村より補助)
 (四) 年間貸付予定額一、二〇〇ドル以内
 (五) 青年会
 (一) 設立年月日一九四八年(初代会長宮城清二)
 (二) 一九六〇年青年会を連合青年会に改称する
 (三) 会長仲宗根清幸
 (四) 副会長伊波直久
 (五) 設立年月日一九四八年
 (六) 嘉手納村校区婦人会会長伊波文子、富前校区婦人会長村山敏子



嘉手納中学校



嘉手納小学校

外十九名当選)
 △一九五七年七月一日学制を廃止、区制に行政区を改める
 △一九五七年十二月二二日招魂の塔建立する
 △一九五八年二月二六日村主催生年合同祝賀会を催す
 △一九五八年三月十六日立法院議員選挙(知花英夫氏当選)
 △一九五八年九月二〇日B軍票をドルに切替す
 △一九五九年二月十日村主催生年合同祝賀会を催す
 △一九五九年二月十九日新庁舎落成する
 △一九五九年二月二八日分村十周年記念並に新庁舎落成祝賀会
 △一九五九年三月一日役所を嘉手納八一番地に移転す
 △一九五九年三月八日教育委員選挙
 △一九五九年四月十八日産業共進会
 △一九五九年七月一日課設置条例を改正し観光課を
 増設する
 △一九五九年九月十日村主催米寿合同祝賀会
 △一九五九年九月十六日台風十四号サラ襲来襲
 △一九五九年十月十六日台風十八号シャイロツト来襲
 △一九五九年十一月一日野国總本殿並に慰霊祭挙行
 △一九六〇年一月三日消防庁舎建築工事着工
 △一九六〇年二月六日村主催生年合同祝賀会
 △一九六〇年二月十七日政府立公園審議委員会来村
 △一九六〇年四月十六日産業共進会
 △一九六〇年五月二八日消防庁舎落成祝賀会
 △一九六〇年七月二五日台風ハリ来襲
 △一九六〇年九月十八日野国總本殿並に慰霊祭挙行
 △一九六〇年九月二八日村主催米寿合同祝賀会を催す
 △一九六〇年十月十三日米

祭野国總管祝15周年分村

議會議長	上間久雄	副議長	伊波直潤	總務委員長	渡慶次憲三	副委員長	神里義弘	總務委員	渡口彦信	伊佐英行	伊山哲男	奥盛盛行	村盛盛信	花城康俊	副財政委員	徳里政助	副財政委員	与那覇孫太郎	財政委員	古謝端三郎	副委員長	大城真栄	委員	山口真吉	知念栄樽	宮城清郎	徳元正信	奥島憲清	花城清	議事事務局	伊佐英忠	教育委員事務局	勝連朝蒲	渡嘉敷佐代子	顧問教師	喜反名正謹	社会教育主事	伊礼武	選挙管理委員会	沢岷安一	軍用地主協会	徳里実
------	------	-----	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	--------	------	-------	------	------	----	------	------	------	------	------	-----	-------	------	---------	------	--------	------	-------	--------	-----	---------	------	--------	-----

種別	牛	馬	豚	山羊	鶏
頭	33	45	1,771	204	1,901
戸数	19	43	410	61	12

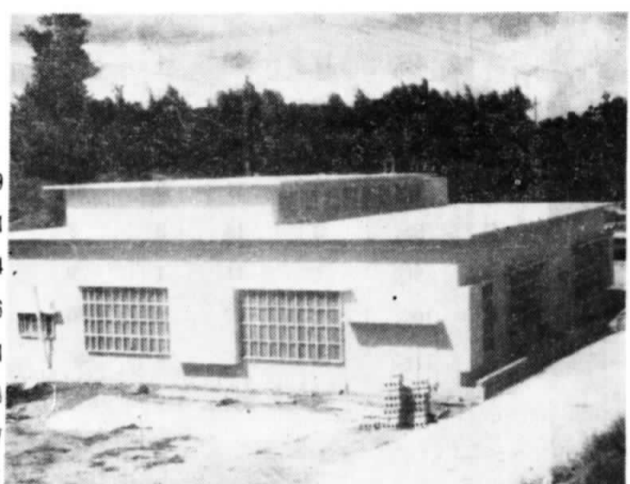
二畜産
 戦前本村は純農村であり、又比謝橋の下迄天馬船が出入出来た。ここに大島その他の離島より家畜の搬入が行なわれていたためその影響をうけ、牛、馬、豚等の飼育が盛んに行なわれていたが戦後は農耕地が軍用地に接収されたため飼育が減少し、なつては飼育者が少なく、地がふえ、化学飼料等も安くなり人手出来るようになり飼育者もふえて来た。



第一次産業のピンチヒッターとして盛んに植付られた甘藷。当村の作付面積は3,758アール

本村に於ける産業経済の沿革

年別	と殺場に於ける屠殺			自家屠殺	合計
	牛	馬	豚		
1956年	3	0	2,362	64	2,429
1957年	5	4	2,772	—	2,781
1958年	9	1	2,902	31	2,944
1959年	6	4	4,336	—	4,346
1960年	9	12	4,051	76	4,151
1961年	4	4	3,968	62	4,038
1962年	2	5	4,852	18	4,877



1963年6月新築落成になった村営の屠殺場

△年次別人口並に世帯数調

年次別	種別			世帯数	年次別	種別			世帯数
	男	女	計			男	女	計	
1948	1,840	2,039	3,879	822	1956	4,871	5,273	10,144	1,956
1949	2,852	3,211	6,063	1,072	1957	4,969	5,364	10,333	1,974
1950	3,064	3,376	6,440	1,334	1958	5,418	5,984	11,402	2,250
1951	3,333	3,764	7,097	1,471	1959	5,781	6,338	12,124	2,412
1952	3,849	4,284	8,133	1,698	1960	6,138	6,688	12,826	2,572
1953	4,150	4,595	8,745	1,804	1961	6,453	7,003	13,456	2,667
1954	4,375	6,785	9,160	1,858	1962	6,532	7,037	13,569	2,568
1955	4,609	5,023	9,632	1,909	1963	6,716	7,199	13,914	2,782

農耕地調

種別	用途別			荒蕪地
	田	畑	計	
許可地	3,118坪	75,586坪	78,704坪	—
軍用地内	15,665坪	149,321坪	161,986坪	50,000坪
計	18,783坪	221,907坪	24,069坪	5,000坪

1962年3月31日現在

経営規模別農家戸数及び人口調

種別	規模				計
	1反未満	1~5	5~10	10~15	
戸数	305	285	14	4	608
人口	1,642	1,785	126	33	3,586

1962年3月31日調

△年度別予算額並に決算額調

会計年度	予算総額	才入決算額	才出決算額
1948年度	22,786 36	14,326 49	13,828 07
1950年度	4,054 43	4,041 17	4,017 69
1951年度	6,320 40	6,146 26	6,146 26
1952年度	14,268 87	12,579 71	12,579 71
1953年度	17,095 16	16,070 69	15,960 40
1954年度	22,896 92	22,132 15	22,082 44
1955年度	27,730 56	25,981 49	25,960 20
1956年度	37,009 02	34,553 00	34,552 54
1957年度	44,966 48	46,908 28	42,233 26
1958年度	70,136 18	71,612 65	66,549 11
1959年度	86,394 —	87,161 81	83,481 32
1960年度	142,039 —	153,903 71	131,360 05
1961年度	118,108 —	150,484 79	102,948 —
1962年度	144,562 —	158,155 30	136,232 44

農作物作付調

種別	1962年3月31日				
	穀物類	油穀類	芋類	工芸作物	果樹
作付面積	18,783坪	1,500坪	174,471坪	26,450坪	300坪

〔註〕作付面積は年間を通しての調査である。

- △今迄に村政功勞者として表彰を受けた者
- (1) 歴代村長の部: 宮城清二、古謝得善、龜谷嘉信
 - (2) 歴代助役の部: 大城真栄、平安常雄、伊礼新盛、親泊朝清、比嘉朝盛、当山哲男
 - (3) 議会議員の部: 高世川可精、仲村史子、伊波スミ、奥間静子、渡嘉敷ヨシ、高世川タケ
 - (4) 役所職員部の部: 宇栄原トヨ、徳元千恵子、池原千代、奥間幸子、桂由紀子、池原吉助
 - (5) その他行政功勞者: 大田康三、奥間盛行、屋我平順、古謝世幸、比嘉加那、玉城尚治、松堂忠盛、幸地静子
 - (6) その他協力者としての感謝状: 軍関係の感謝状: 嘉手納空軍基地司令官 ジョン・R・ロイチ大佐、(2) 嘉手納空軍基地警備隊長 マーク・L・ネーゲル小佐、(3) 嘉手納空軍基地報道部長 M・D・ガラビディ大尉、(4) 嘉手納空軍基地第四一八三隊隊長 中隊爆発物処理隊長 ジョニー・E・コマイヤ大尉、(5) 嘉手納空軍基地設営隊道路舗装課主任下士官 リチャード・F・フォックス曹長、(6) 嘉手納空軍基地設営隊道路舗装課建設用重機監督官 チャールズ・W・デンシナー軍曹
 - (7) 農業者関係功勞者: 仲宗根朝清、世名城盛仁、仲宗根朝清、仲宗根朝勝、村山盛信、喜友名朝順
 - (8) 嘉手納空軍基地第四一八三隊隊長 中隊爆発物処理隊長 ジョニー・E・コマイヤ大尉、(5) 嘉手納空軍基地設営隊道路舗装課主任下士官 リチャード・F・フォックス曹長、(6) 嘉手納空軍基地設営隊道路舗装課建設用重機監督官 チャールズ・W・デンシナー軍曹
 - (9) 自警団: 大城真栄、平安常雄、伊礼新盛、親泊朝清、比嘉朝盛、当山哲男
 - (10) 教育行政関係: 高世川可精、仲村史子、伊波スミ、奥間静子、渡嘉敷ヨシ、高世川タケ
 - (11) 総合グラウンド建設: 宮城清二、古謝得善、龜谷嘉信

六一人を表彰

分村十五周年記念式典で

本村は一九四八年に北谷村から分村して今年で十五周年に当たりますが、これを記念してこれまで村発展のためにつくられた次の方々を表彰することになりました。

二分村15周年祝野国総管祭二

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|----------------|----------------|---------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|-----------|----------|---------------|--------------|--------|---------------|-------|------|
| 十一区自治会長
伊礼富子 | 十区自治会長
花城康真 | 九区自治会長
大城武雄 | 八区自治会長
森山一 | 七区自治会長
桑江朝太郎 | 六区自治会長
喜友名朝栄 | 五区自治会長
仲村喜現 | 四区自治会長
古謝昌徳 | 三区自治会長
上運天先保 | 二区自治会長
照屋唯三郎 | 一区自治会長
津波古行栄 | 自治会
知村花幸子 | 村
村山清子 | 村
山清子 | 生改普及員
照屋富雄 | 福祉主事
照屋キヨ | 公
看 | 農改普及員
比嘉盛栄 | 津嘉山栄健 | 政府駐在 |
|-----------------|----------------|----------------|---------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|-----------|----------|---------------|--------------|--------|---------------|-------|------|

